

七十七ビジネス大賞受賞

第10回（平成19年度）

企業 インタビュー

Interview

株式会社北洲

代表取締役社長 村上ひろみ 氏



会社概要

住 所：黒川郡富谷町成田九丁目2-2
設 立：昭和43年（創業：昭和33年）
資 本 金：244百万円
事業内容：住宅設計施工・建設資材小売
電 話：022（348）3011
U R L：http://www.hokushu.net/

「強さ」「機能性」「美しさ」「省エネルギー」のサステナブル建築を具現化する木造注文住宅のトータル提案企業

今回は「七十七ビジネス大賞」受賞企業の中から、岩手、宮城をベースに最先端技術を駆使した住宅建築を实践し、また日本全国へ輸入資材販売を行い建設資材販売業としてトップクラスの実績を誇る、株式会社北洲の村上社長を訪ね今日に至るまでの経緯や事業戦略などについてお伺いしました。

北国に暖かい住まいを提供

——七十七ビジネス大賞を受賞されたご感想をお願いします。

当社は岩手県が創業地であり、宮城県へ進出して約20年が経ちました。今回の受賞により、当社が宮城県の企業として認めて頂けたのだと大変嬉しく思っています。

また当社は、おかげ様で創業50周年を迎えたため、これまでの活動のご褒美であると思っています。今後も地方ビルダーとして業界の最先端を走り、皆様に高性能住宅をご提供できるよう努めます。

——創業当初の経緯をお聞かせください。

創業者である私の父・片方厚夫会長は、岩手県北上市出身で実家が製材所を営んでいました。大学進学を目指していた頃、当時は不治の病とされた結核と診断され3年間の療養生活を余儀なくされました。幼い頃から商社マンになることが夢だった父にとって、回復後に同級生が皆社会人となっていたことへの挫折感と屈辱感は大きいものでした。

しかし、このことをバネに商売の道で自分の夢を叶えようと決意し兄が継いだ製材所を手伝い始めました。そして1958年、23歳の時に新建材のベニヤ

の販売で独立し「北洲ベニヤ商会」を創業しました。「北洲」とは、和賀川と北上川が合流する三角洲にあやかり北国の洲として末広がりにより会社が発展することを願って命名しました。創業当初は苦労の連続でしたが、次第に新建材商品がクローズアップされ相次いで支店を開設し、1973年には建材小売業として岩手県でトップの座につきました。

創立15周年を迎えたのを機に「株式会社北洲」と社名を変更した後、当時日本で導入したばかりのツーバイフォー工法の先進性にいち早く着目し、住宅建築への取組みをスタートしました。

私は大学卒業後、松下電工の住宅関連部門に営業担当として約3年間勤め、1990年に当社へ入社しました。ハウジング部門での事務から人事、財務を担当した後社長へ就任し、現在は素晴らしい従業員と共に「本物」の家づくりに努めています。

——事業内容について教えてください。

当社はハウジングと建設・資材の二つの事業部を大きな柱として事業展開しています。まずハウジング事業部では、ツーバイシックス工法をベースとした高性能な注文住宅の設計・施工・販売までトータル対応しています。創業当初より展開している建設・資材事業部では、建築資材、住宅機器、木材製品、サッシ等の販売や、内外装の施工、輸入建築資材販売を行っています。この二つの事業がそれぞれに独自性を持って共存し、かつシナジー効果を生み出しているのが当社の特徴です。

また2006年よりスタートさせたアルセコ事業部では、地球環境の保全貢献企業を目指す当社新事業の要と位置づけ、外断熱工法の日本国内での普及に取り組んでいます。

——経営理念についてお聞かせください。

創業より、日本一の建材小売店を目指して雪と寒さに強い住まいづくりを行うという理念を掲げ、岩手県で事業展開してきました。現在は、お客様に最高のご満足をいただくため誠意を尽くすという我々の使命の下、お客様の健康と家族の幸せを願い上質



社内風景

な暮らしをお届けすると共に、従業員と当社に関係する全ての人が幸福になる会社を目指しています。

社風の一環として、毎朝全員で清掃活動を行ったり、朝礼では声を上げて経営理念を再確認するなど団結力の強化に努めています。今後も、現状に満足することなく常に原点へ戻り、お客様第一主義の住まいづくりに努めます。

最先端技術をいち早く導入

——住宅建築へ進出した経緯をお聞かせください。

約30年前の住宅は、北国にも拘らずとても寒々しく気候に適していませんでした。そこで、住宅部門を設置し当時日本に導入したばかりのツーバイフォー工法を採用しました。本来、建材流通会社が自社名を掲げて住宅建築へ進出し取引先と競合することは、お客さまからの反感を招く恐れがあるため行われません。しかし暖かい家を造りたい一心で、お客様への責任を示すためにあえて自社による住宅建築に挑戦しました。

——住宅の特徴について教えてください。

「住み継がれて風景になる」をコンセプトに、省エネルギーで冬でも暖かく、住宅が100年もち耐久性を保持しています。また、飽きのこないデザインで時を経るごとに味わいが増し、いつしか美しい風景になることを目指しています。

技術面においては、寒い地方に適したツーバイフ

オー工法から進化し、耐久性や省エネルギー性が増したツーバイシックス工法を標準仕様としています。このため、標準仕様でありながら断熱性能（熱損失係数Q値 $1.2\text{w/m}^2\text{k}$ ）、気密性能（相当隙間面積C値平均 $0.65\text{cm}^2/\text{m}^2$ ）ともに業界最高水準をマークしています。

住宅の外観は、飽きのきにくい大屋根を基調とし、重厚感があるのが特徴です。また、家の中は扉が少なくオープンな設計になっているため温度がほぼ一定で、家族のコミュニケーションがとり易い間取りになっています。

快適で安全な住まいを目指して

——顧客ニーズへの対応について教えてください。

当社は全て注文住宅により、お客様のニーズに合った最高の住まいの提供に努めています。設計を外部に委託する会社が多いなか、当社では設計担当とデザイン担当を配置し全て社内設計を行っています。さらに、引渡し時と入居1年後に実施しているアンケートで頂いたお客様の声を全てフィードバックし今後へ反映させるなど、営業担当だけでなく設計および建設担当も含めて全員でお客様にご満足いただけるよう取り組んでいます。

また、当社にて新築を計画中のお客様には既に入居されているお宅をご案内し、実際に生活してみた感想など生の声を聞いていただく機会を設けて、安心と信頼の確保に努めています。

——「既存住宅検診センター」について教えてください。

当センターでは「住宅検査診断システム」を東北地方で始めて導入し、サーモグラフィーやポルカメラなどの精密機械を使って、耐震性・建物内外部の劣化や不具合・有害物質の有無など最大272項目の調査が可能です。検診は他社で建築した住宅でも対応しているため、リフォームや中古住宅購入予定者、耐震への不安がある方など様々な目的や用途に合わせて利用可能です。目視だけでは不可能な細部

に亘る正確な検診結果でお客様の安全を守ります。

クリーンな未来への挑戦

——「北洲総合研究所」について教えてください。

住宅の性能が高くずっと住み継がれるためには、次世代の住宅に何が求められるのかを探求することが必要であると考え、1991年に設立しました。

研究所ではスペシャリスト集団が、住宅商品開発や良質なオリジナル建材の開発・供給に注力すると共に、世界各国の住宅資材メーカーから当社に合ったものをリサーチする取り組みも行っています。

——環境への取り組みについてお聞かせください。

現在、世界的にCO₂問題が叫ばれるなか当社では人類のサステナビリティ(持続可能な未来)という観点から、環境負荷の低減と優良建築資産の蓄積の両立を目指した実験住宅建設のため、2005年にメーカー31社からなる「サステナブルハウスプログラム研究会」を設立しました。研究会では、東北大学大学院工学研究科の吉野博研究室と共同で、全部で99個の新しい取り組みを実施し、IAQVEC 2007国際会議にてエネルギー消費量、室内熱環境等の実測データ、検証結果を発表しました。

一般的にサステナブル建築とは、環境負荷の少ない建築のことをいいますが、当社では「強さ・機能性・美しさ・省エネルギー」と考えています。実験住宅で実施している99アイテムを少しでも多く採



「サステナブルハウスプログラム研究会」実験住宅



本社「北洲プラザ」

り入れた、独自のサステナブルハウスの提供を目指して今後も研究活動に注力していきたいと思いません。

——「北洲プラザ」にも最新技術が採用されているそうですね。

2006年に黒川郡富谷町に完成した本社「北洲プラザ」は、自社設計・自社施工で造った三階建て・約1200坪の木造建築です。従来、大規模建築はほとんどが鉄骨造やRC造でしたが環境を考慮し、ツーバイエイト・ヘビーティンバー工法による大規模木造建築を実現しました。

また、外壁には184mmの高性能な断熱材を使用しているため、冷暖房費は一般的なビルの3分の1程度で省エネルギー法の7倍の断熱性能を有し、室内の床と天井および部屋と部屋の温度にムラがなく非常に快適な環境となっています。昨年は第20回日経ニューオフィス賞において、「ニューオフィス推進賞」および「同東北経済産業局長賞」を受賞しました。

発展に向けた新たな取組み

——建築資材小売業についてお聞かせください。

若手県と宮城県を中心とした工務店・ビルダーを対象に建築資材販売を行い、小売店としては日本で

もトップクラスの実績を有して来ました。その要因の一つに、平成12年に発足した輸入部があります。1989年よりアメリカやカナダを主流とした輸入資材の取扱いを開始しましたが、より良い品質を求めてノルウェーに駐在員を配置し、ヨーロッパを中心とした輸入事業へと本格的に移行しました。

また、輸入木製サッシは当社が求める最高レベルの品質になるよう何度も交渉を重ね、オリジナルを製造しています。本物の木材とは時を経る毎に風合いを増していくため、国産の木材も含め全ての商材は徹底した品質管理を行っています。

——「BBS大学」について教えてください。

まず、1970年に建設資材流通業のお客様である工務店様を対象とした講習会「北洲学校」を開校し、職人教育やマネジメントなどについての勉強会を開催しました。そして1981年、ハウスメーカーが地場工務店の商圏に乗り込んできた時期に工務店の生き残りを目指して、高齢者対応や健康住宅などをテーマにした講習会「BBS大学」を開校し、全国の著名な研究者や大学の教授、地方ビルダーの経営者などを講師に招いて開催しています。現在、「若手経営者塾」と称し、二代目経営者様、次期後継者様を対象に住まいを創る力を学んでいただいています。

欧州技術を日本風土に応用

——「アルセコ・マーク外断熱システム」について教えてください。

2007年にドイツの外断熱トップメーカーであるアルセコ社と「湿式外断熱工法」の技術提携をしました。一般的な外断熱は断熱材の間に胴縁を配置して外壁を貼るという乾式ですが、この湿式は構造体と断熱材を特殊な接着剤で直接貼り付けるため多くの優れた特徴を有しています。

まず、曲面での施工性に優れ、直張りのため胴縁や留め付け金具などが無く低コスト・短工期です。また、断熱材は高性能なロックウールを採用してい

るため耐火性に優れており、改修工事やメンテナンスも容易で騒音はほとんどありません。さらに、外断熱で躯体の外側で断熱されているため、蓄熱効果が高く室内は常に一定の温度に保たれ、結露やカビが発生しにくく快適な上に、省エネルギーでCO2削減が図られます。

この工法は、木造・RC・鉄骨造等どんな建物でも高断熱を長期間確保することができるため、今後は断熱リフォームへの取組みも検討しながら推進を強化していきます。

お客様と社員の幸せを願って

——今後の事業展開についてお聞かせください。

現在ハウジング事業部では、眼科や産婦人科、グループホームなどの医療機関の建築依頼が増えてきています。木造建築は目に優しく暖かく、長時間居てもくつろげる空間が得られるため、今後は一般住宅以外の建築にも積極的に取組んでいきたいと考えています。

また社内での取組みとして、社員への表彰制度や提案の場を設けるなど自主自立を支援する仕組みを考えています。社長として、事業のビジョンを掲げてフィールドを作り、社員が楽しく仕事ができる環境づくりに努めていきたいと思っています。

——住まいの安全を守るための取組みについてお聞かせください。

住宅の安全は施工過程で作っていくものであり、完成後に確認することはとても困難です。当社では、建設担当以外の部署に検査員を配置し、耐震性や建物内外の不具合などについて施工過程での厳しい検査を実施しています。そこで一箇所でもチェックが入ると作業を中断し必ず修正を施してから再開します。

お客様に誠意を尽くし幸せを与えることは住宅メーカーである我々の使命です。品質や構造の管理徹底は企業としての責務であり、常に100%の姿勢で取組んでいます。

ひとつの想いを大切に

——最後にこれから起業する方へアドバイスをお願いします。

私は、何もアドバイス出来る事はございませんが、1958年の創業より50年間に亘り事業を継続できた大きな要因は、より快適な住まいの実現という一心で真正面からお客様と向き合い、会社を成長させてきたことだと思います。売上を伸ばして実績を積み重ねることで会社は成長し、お客様や取引先からの信頼や支持が得られ、社員の求心力となります。これは、とても地道で企業にとっては一番辛く難しいことですが、必然的に三者に利益をもたらし幸せへと繋がります。

どのような目標を持って事業を始めるのかを明確にして、辛いときでもその想いを忘れずに実現を目指して頑張ってください。



北洲プラザ前にて

長時間にわたりありがとうございました。御社の今後のますますの発展をお祈り申し上げます。

(20. 7. 18取材)